

1. 牛久市の現況

(1) 人口

①人口

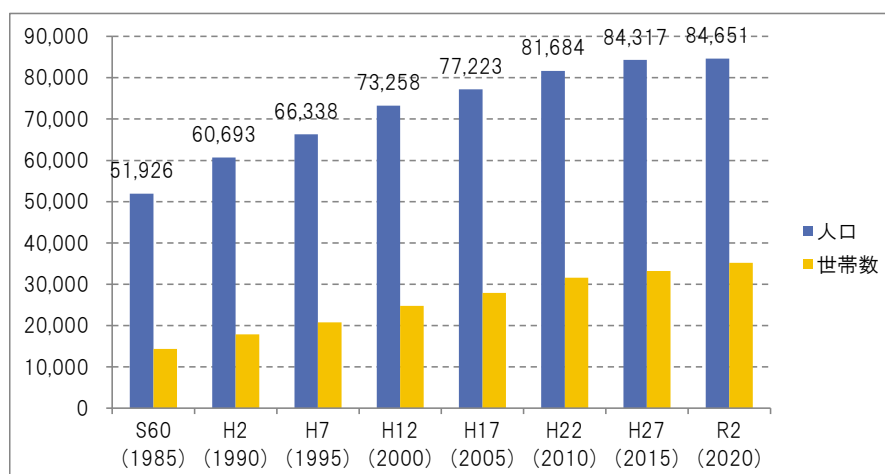
■人口は増加傾向にあるものの、近年は増加率が鈍化

- ・平成 27 年(2015 年)から令和 2 年(2020 年)の人口増加率は約 0.4%であり、過年度の人口増加に対してほぼ横ばいとなっている。
- ・令和 2 年の人口は 84,651 人であり、牛久市人口ビジョン（平成 28 年）における令和 42 年の人口目標 84,000 人とほぼ同水準となっている。

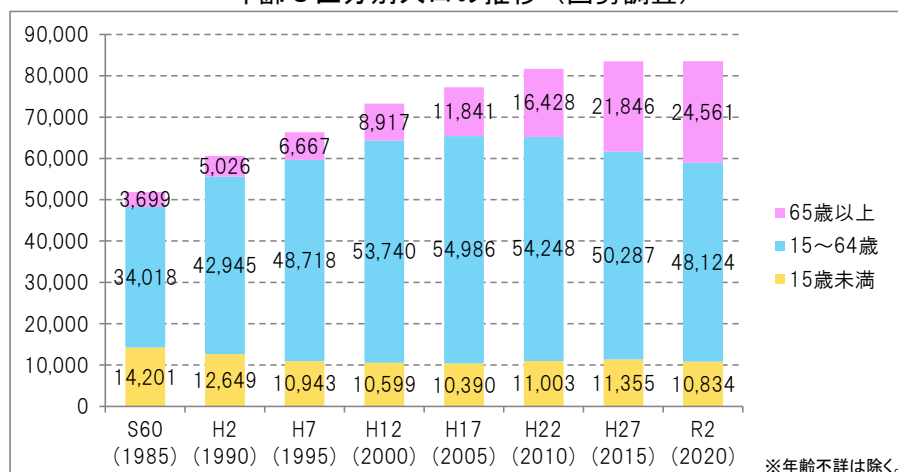
■高齢者人口の急速な増加

- ・年齢 3 区分別に人口増減をみると、高齢者（65 歳以上）人口は急速に増加しており、平成 27 年(2015 年)時点で 2 万人を超過し、令和 2 年(2020 年)では 24,561 と全人口の 3 割近くを占めている。生産年齢人口（15～64 歳人口）は平成 17 年(2005 年)をピークに減少、年少人口（14 歳以下）は平成 7 年(1995 年)以降横ばい傾向にある。

総人口の推移（国勢調査）



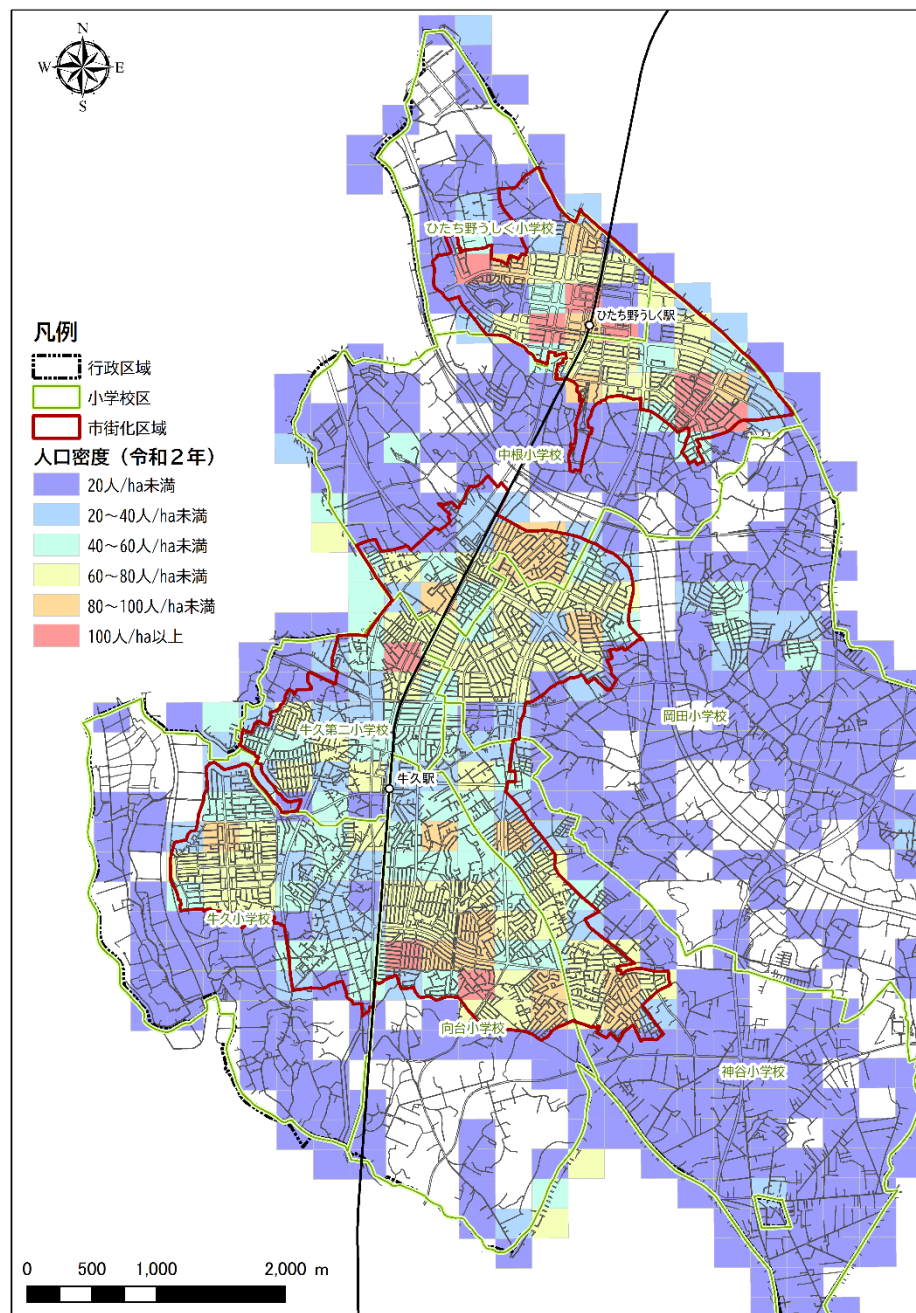
年齢 3 区分別人口の推移（国勢調査）



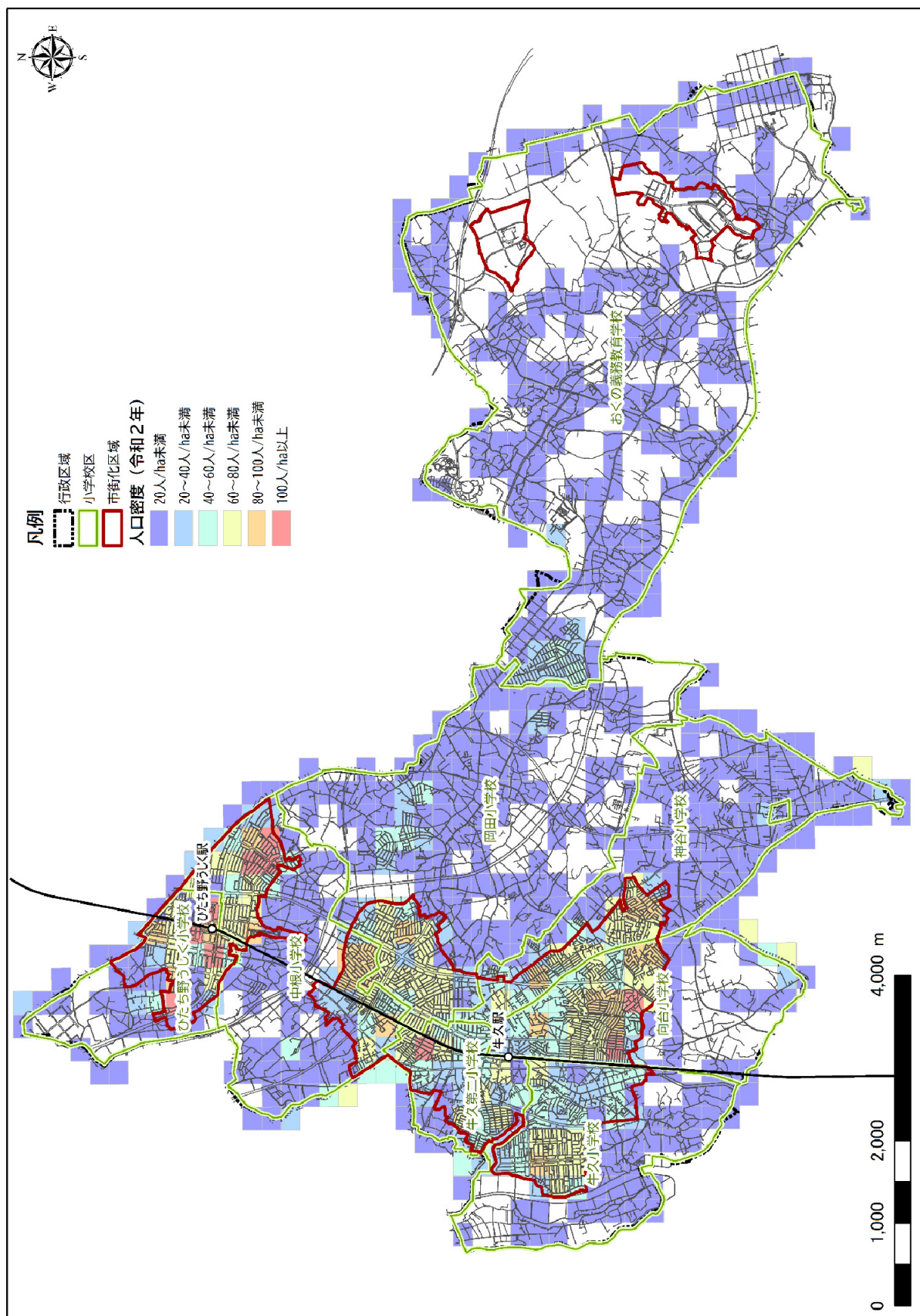
■牛久駅直近部より駅からやや離れた区域の方が人口密度が高い

- ・令和2年国勢調査の250mメッシュでの人口分布をみると、おおむね市街化区域は40人/ha以上、市街化調整区域は20人/ha以下となっている。
- ・市街化区域では、牛久駅周辺市街地において、駅直近部では40～60人/haであるが、駅からやや離れた区域（主として計画開発地）においては60～80人/haや80人/ha超の区域がみられる。
ひたち野うしく駅周辺市街地においては、駅周辺で60～80人/ha以上であるが、駅から離れた区域でも100人/ha以上の区域がみられる。
- ・市街化調整区域では、都市計画法第34条14号による既設団地（小坂団地等）において20～40人/haの区域が存在する。

人口分布図（市街化区域拡大）（令和2年国勢調査 250m人口メッシュ）



人口分布図（全市）（令和2年国勢調査 250m人口メッシュ）



②将来人口と人口密度

■将来人口推計

・牛久市の人口は、これまで一貫して増加傾向にあったが、平成 27 年(2015 年)から令和 2 年(2020 年)にかけてはほぼ横ばいとなっている。牛久市人口ビジョンでは、令和 42 年(2060 年)の人口目標を現在と同水準の 84,000 人とし、第 4 次総合計画第 1 期基本計画による人口推計では、令和 22 年(2040 年)で約 85,706 人に達するとされている。

一方、国立社会保障・人口問題研究所の推計では、令和 7 年(2025 年)をピークに減少に転じ、令和 22 年(2040 年)で 82,656 人と推計されている。

・国土交通省の推計では、茨城県内の令和 32 年人口では、つくば市と並び牛久市街地の人口集積は高い予測となっている。

一方、牛久駅周辺市街地、特に牛久駅西側で顕著な人口減少が予想されている。

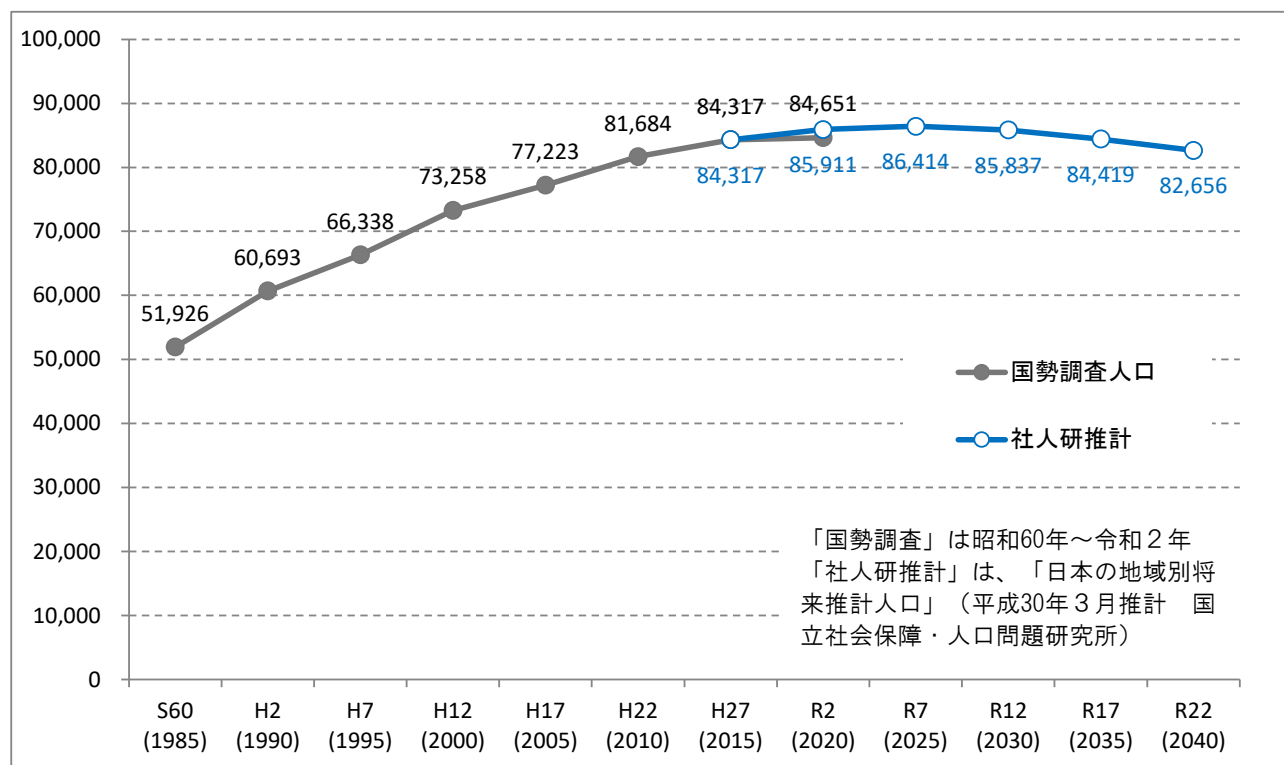
■人口減少、高齢化の進展

・65 歳以上人口の割合は増加の傾向にあり、平成 27 年(2015 年)は 25.9%で、令和 2 年(2020 年)は 29.0%と、5 年間で約 3 %の増加がみられ、今後は更なる増加が予想される。

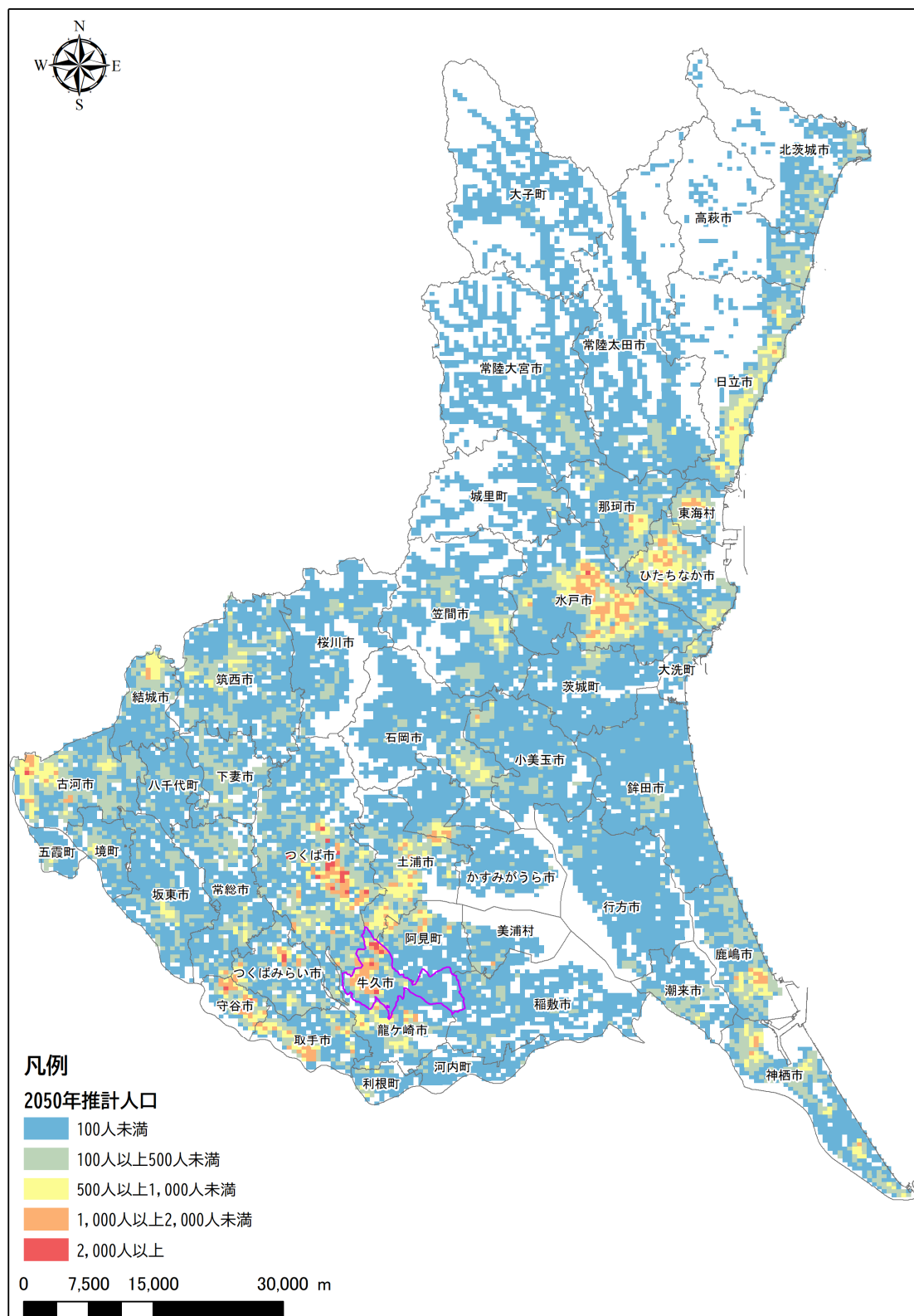
・地区別の高齢化の状況では、市街化区域が約 27.1%、市街化調整区域が約 35.4%となっている。小学校区別にみると、市街化区域では、牛久・向台・牛久第二小学校区で比較的高く、旧来からの市街地を中心に高齢化が進んでいる。

・将来は市街化区域全体的に高齢化の進展が想定される。特に、ひたち野うしく駅周辺では、平成 27 年(2015 年)から令和 35 年(2050 年)にかけて高齢者人口増加率は 500%以上と想定される。

人口動向と今後の予測

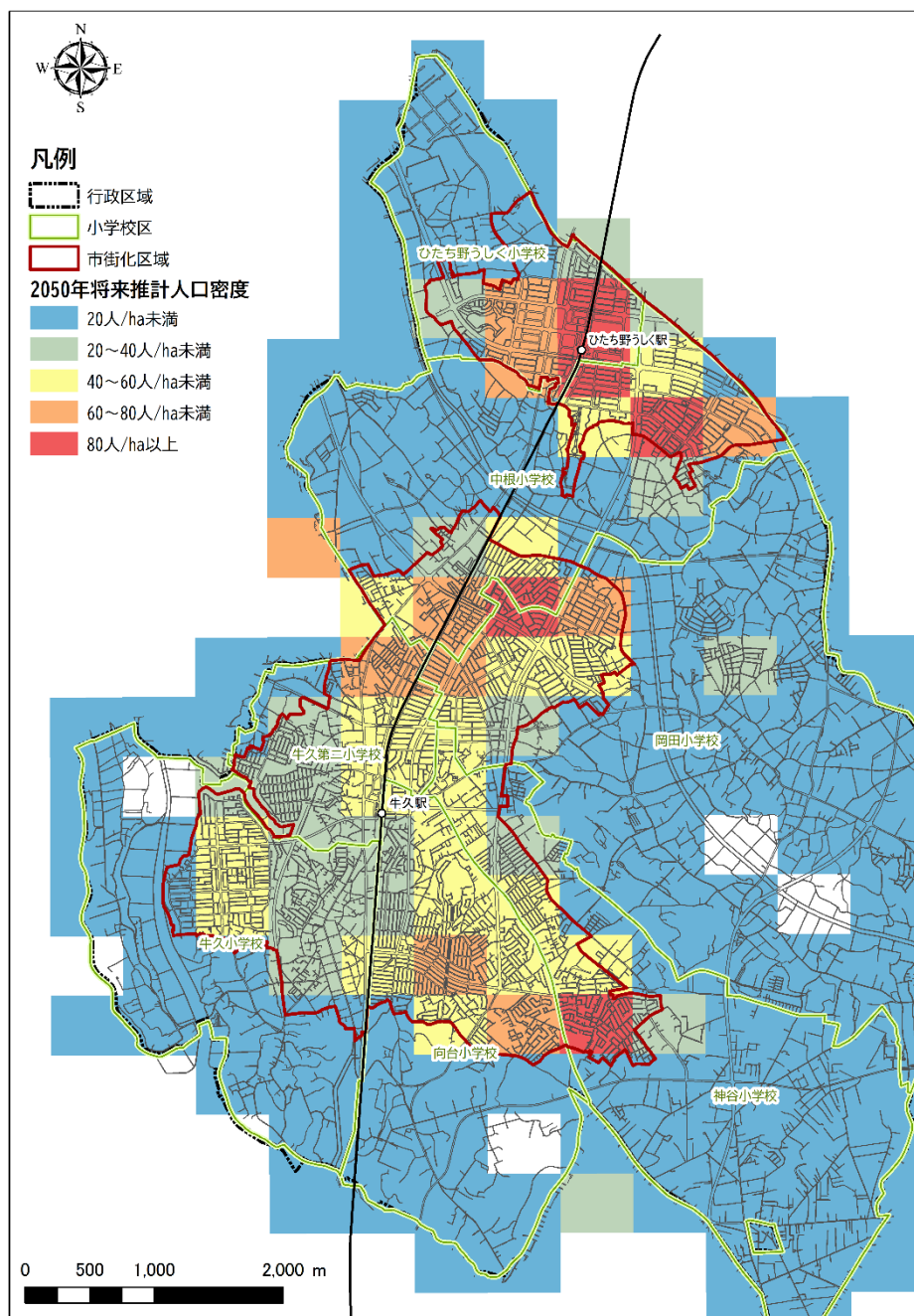


茨城県における令和 32 年（2050 年）の予測人口 500mメッシュ（国土交通省推計）



出典：国土交通省（平成 30 年推計）

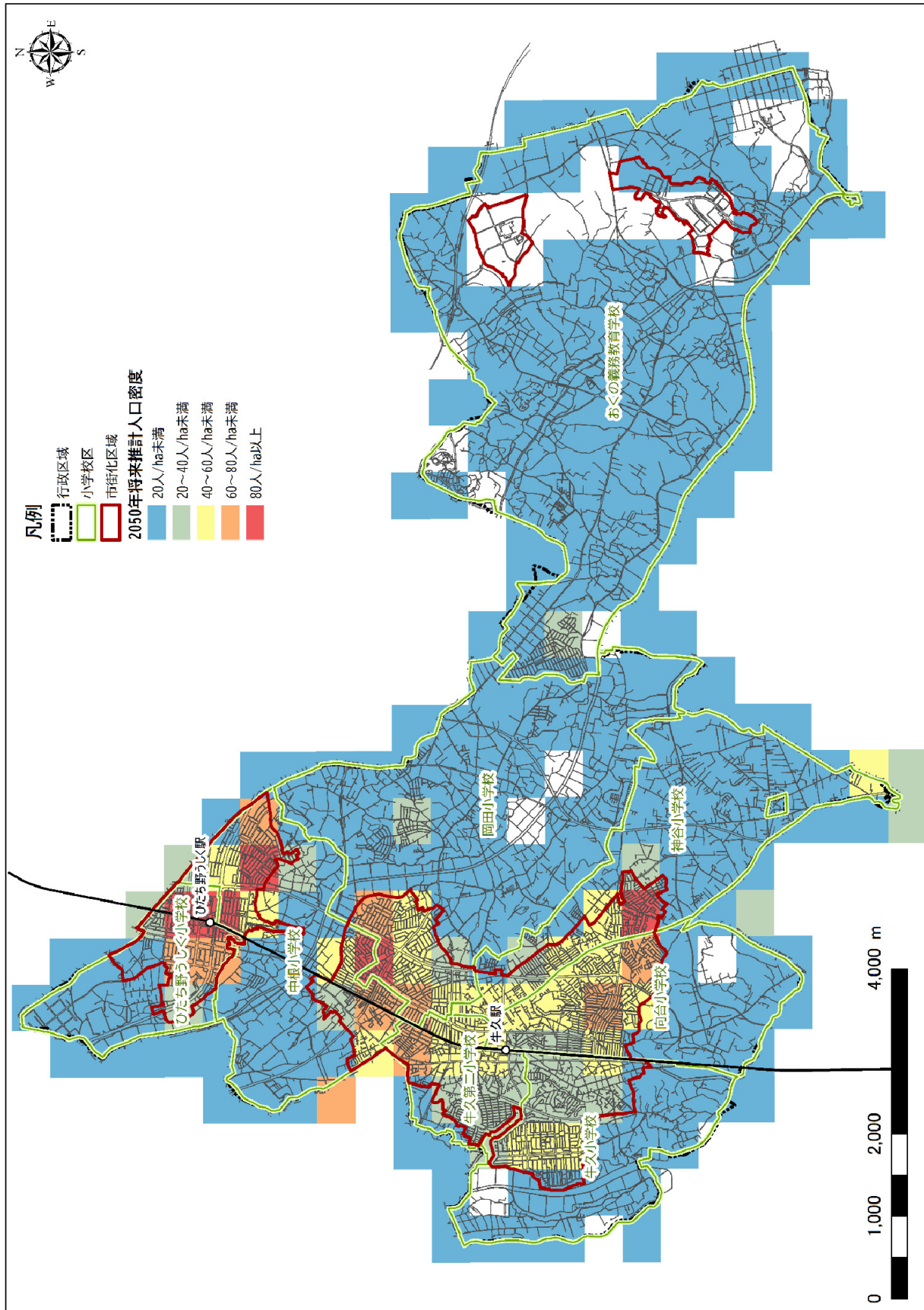
令和 32 年（2050 年）の人口密度メッシュ（市街化区域拡大）



注：本計画においては目標年次をおおむね令和 22 年としているが、上記では地区別（500mメッシュ別）の将来人口として、すでに公表されている国土交通省の令和 32 年予測を用いる。（以下同様）

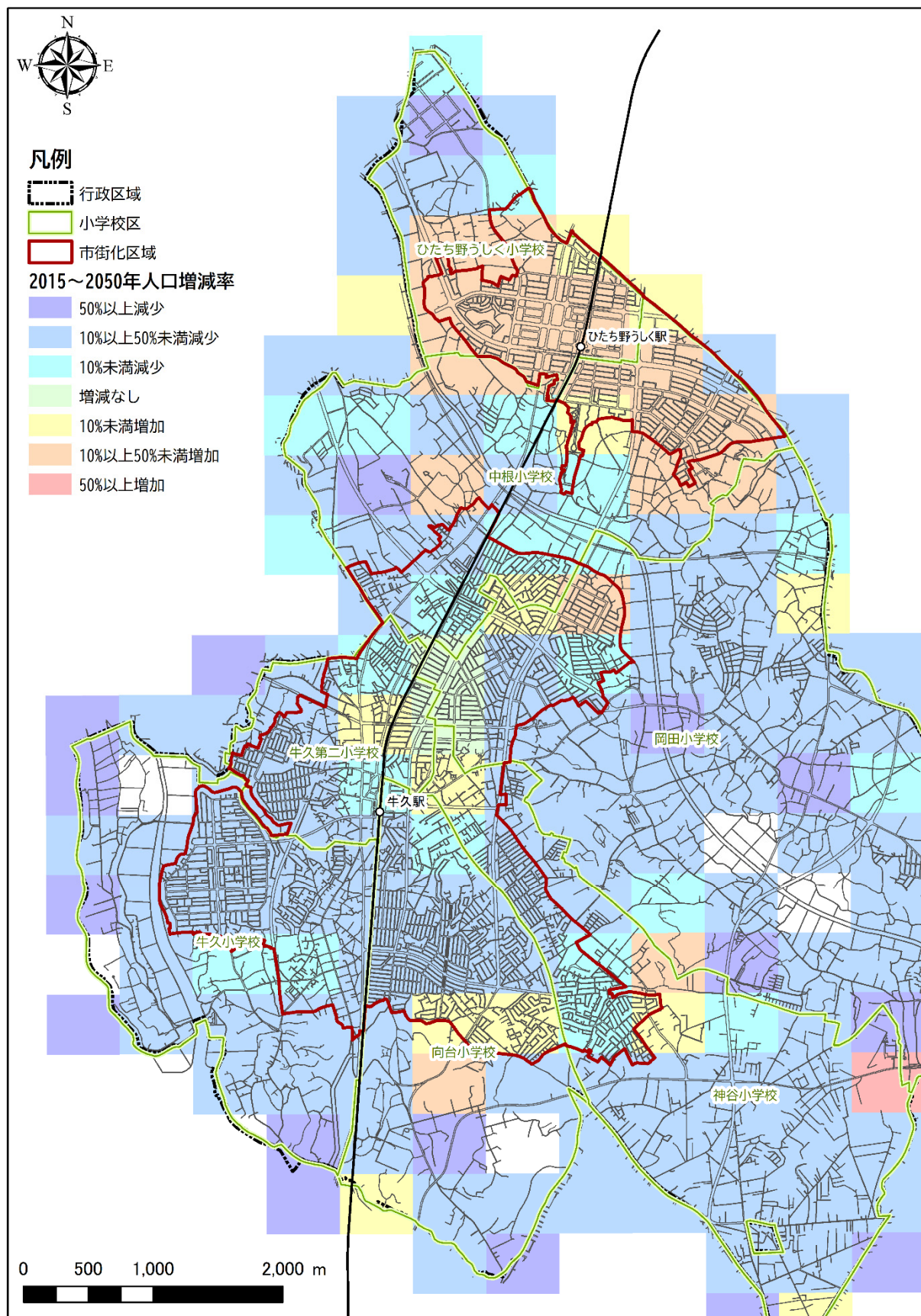
出典：国土交通省（平成 30 年推計）

令和 32 年（2050 年）の人口密度メッシュ（全市）



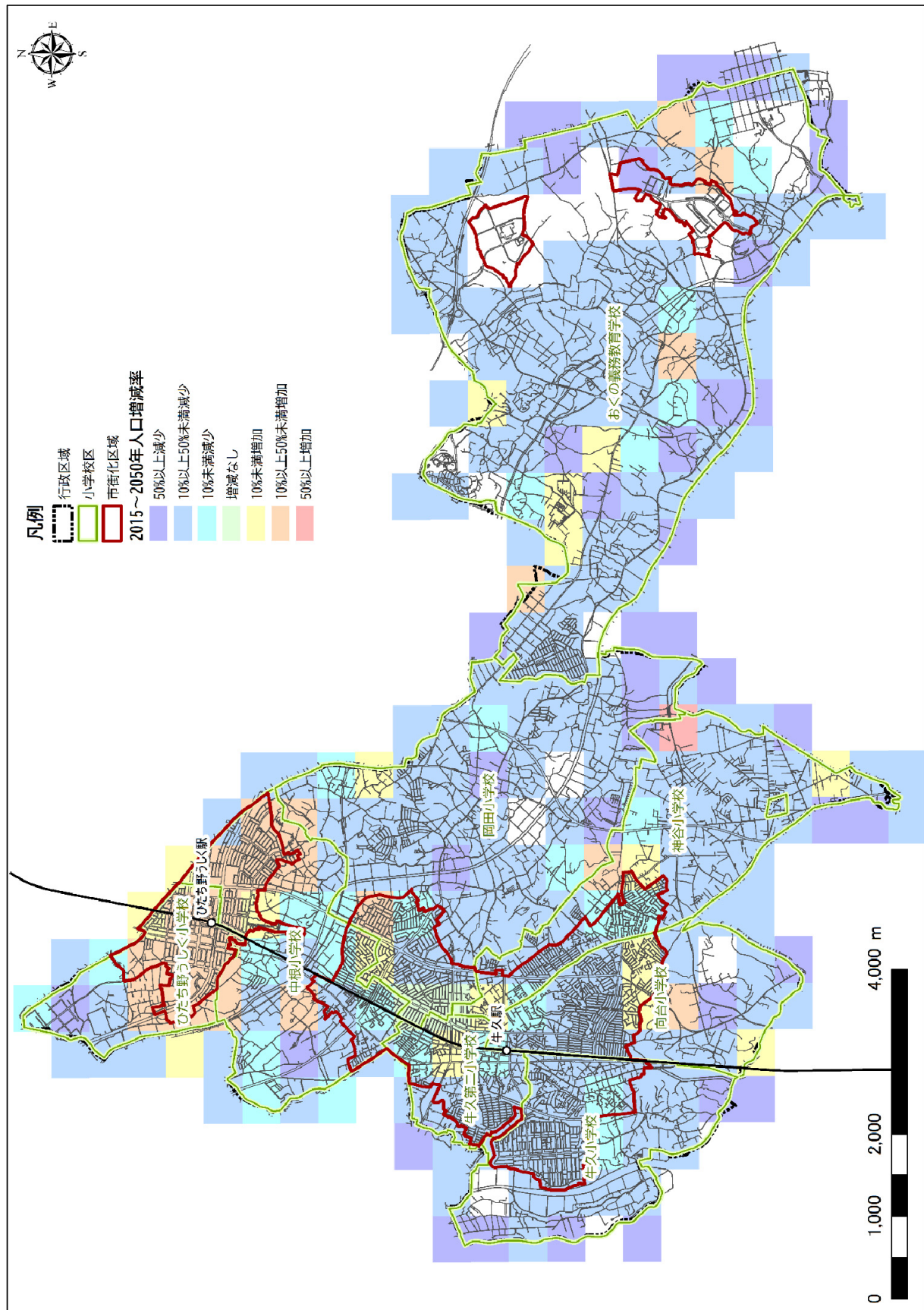
出典：国土交通省（平成 30 年推計）

平成 27 年 (2015 年) ⇒ 令和 32 年 (2050 年) の人口増減率メッシュ (市街化区域拡大)



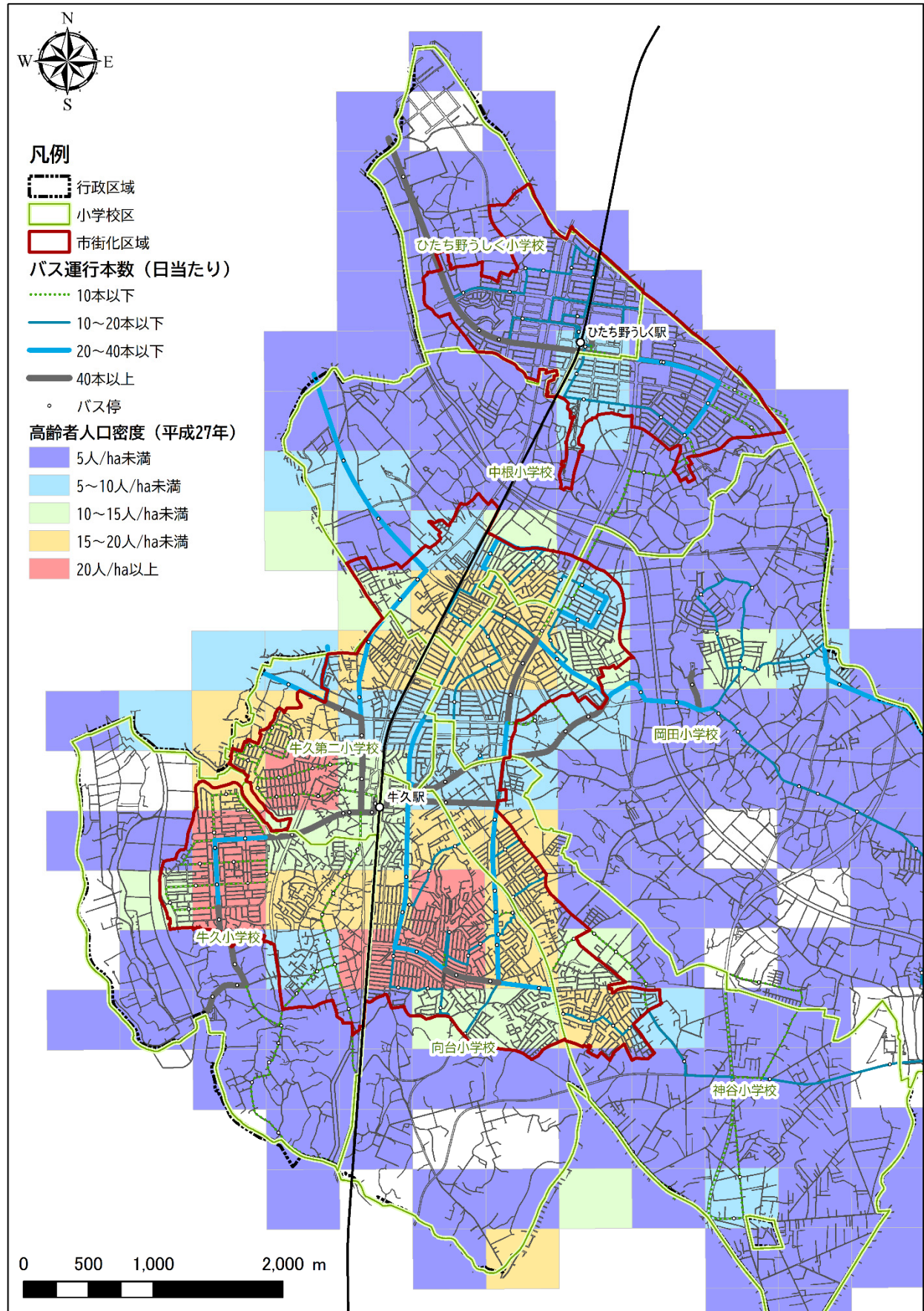
出典：国土交通省（平成 30 年推計）

平成 27 年 (2015 年) ⇒ 令和 32 年 (2050 年) の人口増減率メッシュ (全市)



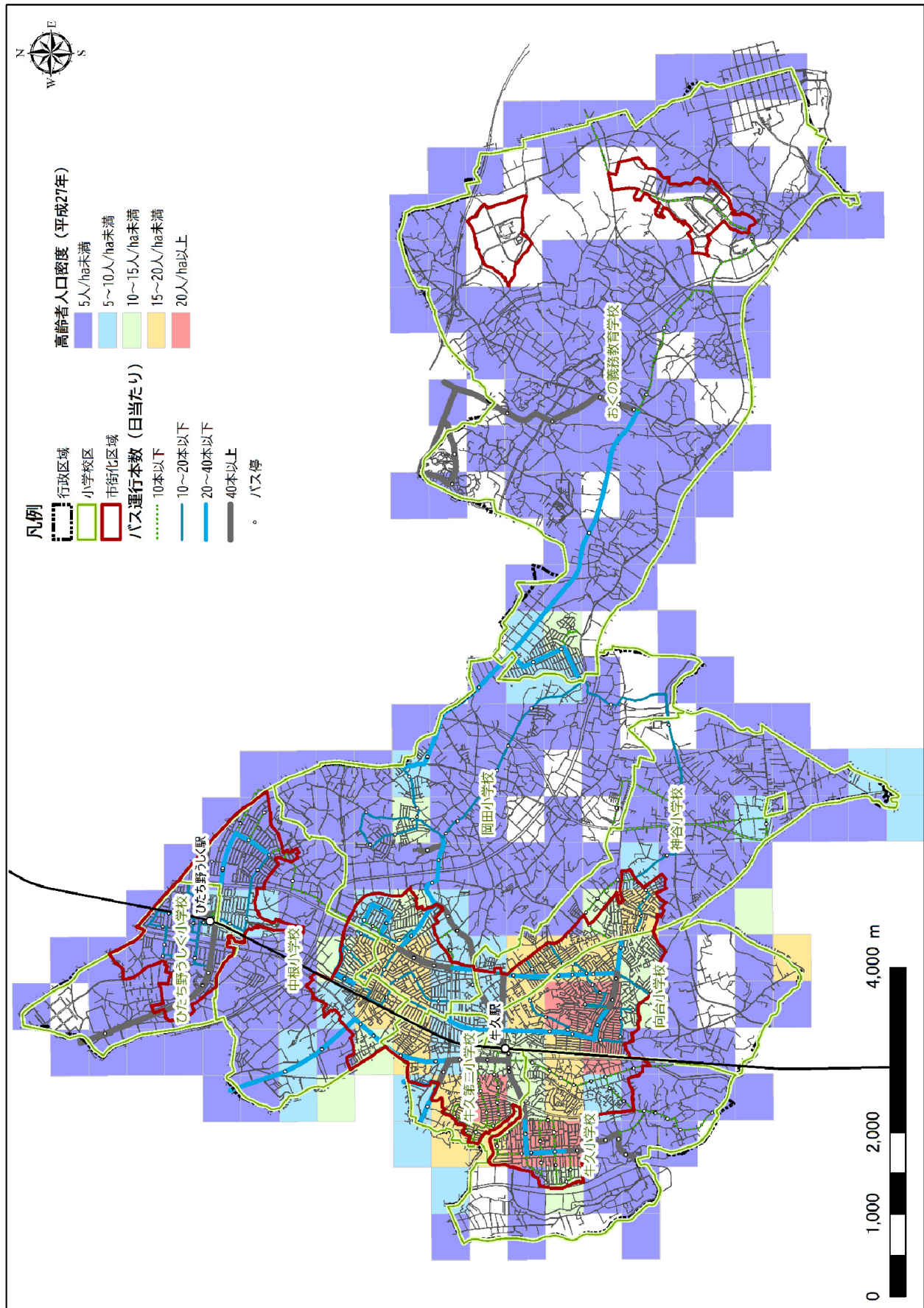
出典：国土交通省（平成 30 年推計）

平成 27 年（2015 年）高齢者人口密度分布（市街化区域拡大）



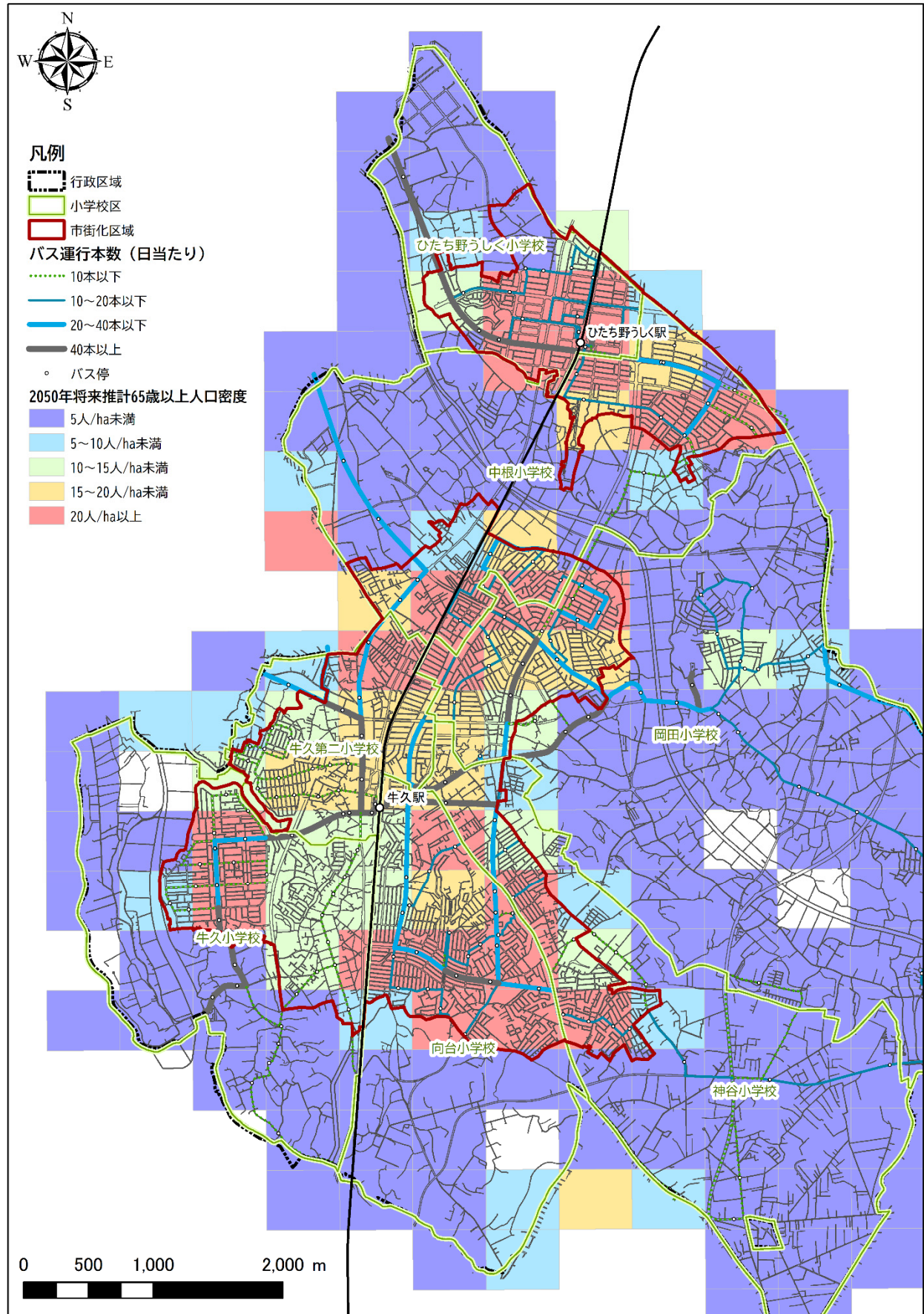
出典：国勢調査（平成 27 年）

平成 27 年（2015 年）高齢者人口密度分布（全市）



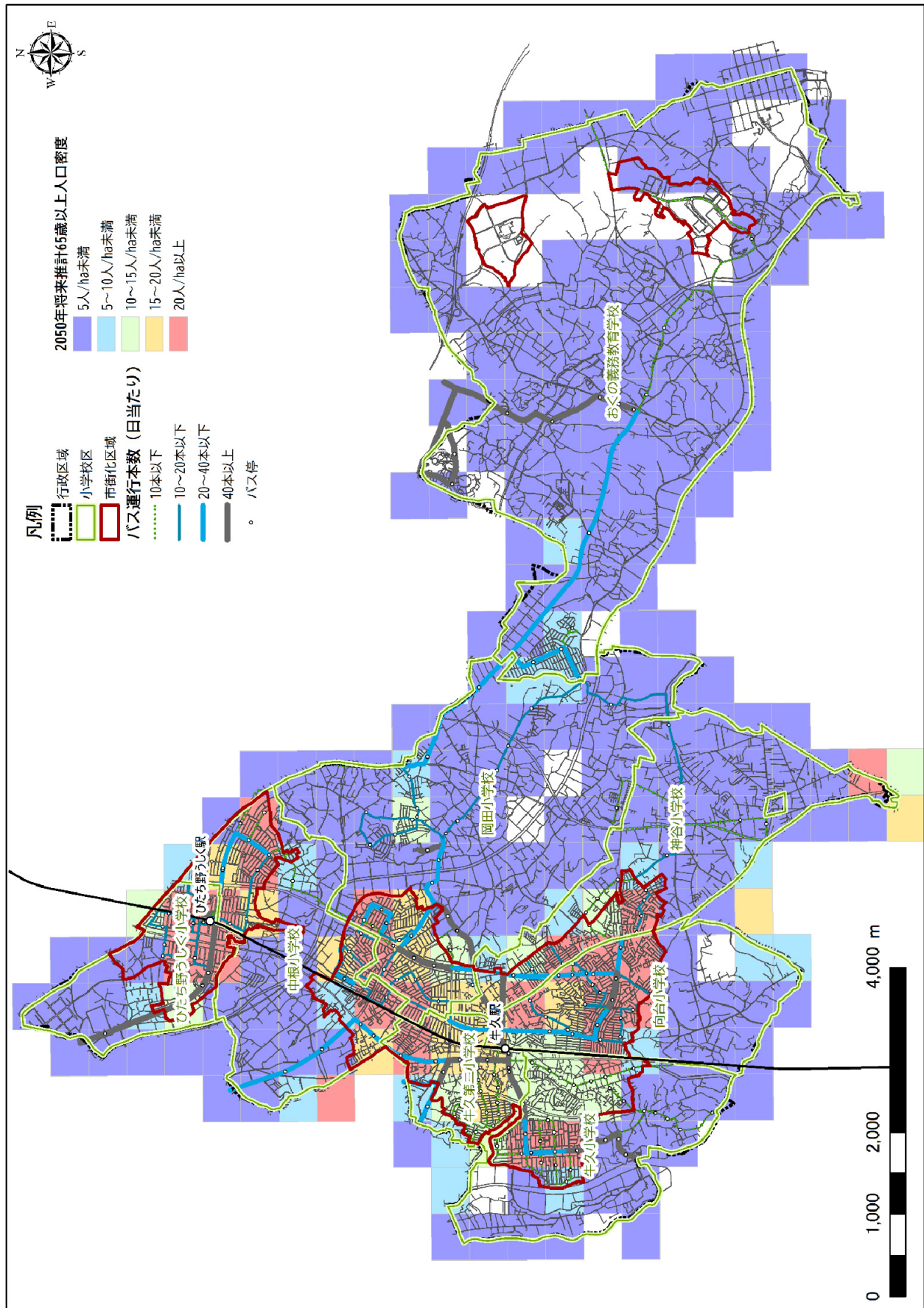
出典：国勢調査（平成 27 年）

令和 32 年（2050 年）推計高齢者人口分布（市街化区域拡大）



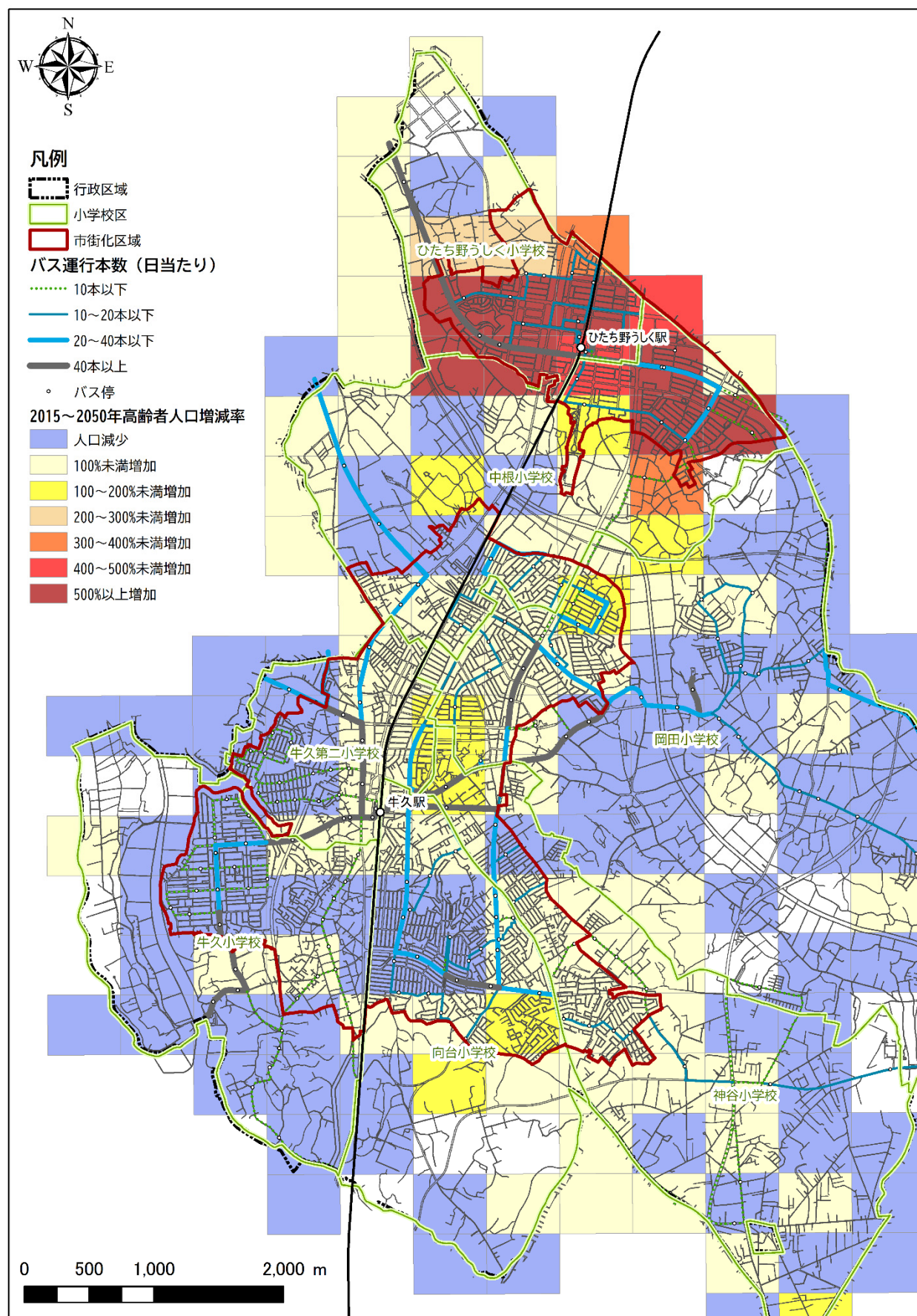
出典：国土交通省（平成 30 年推計）

令和 32 年（2050 年）推計高齢者人口分布（全市）



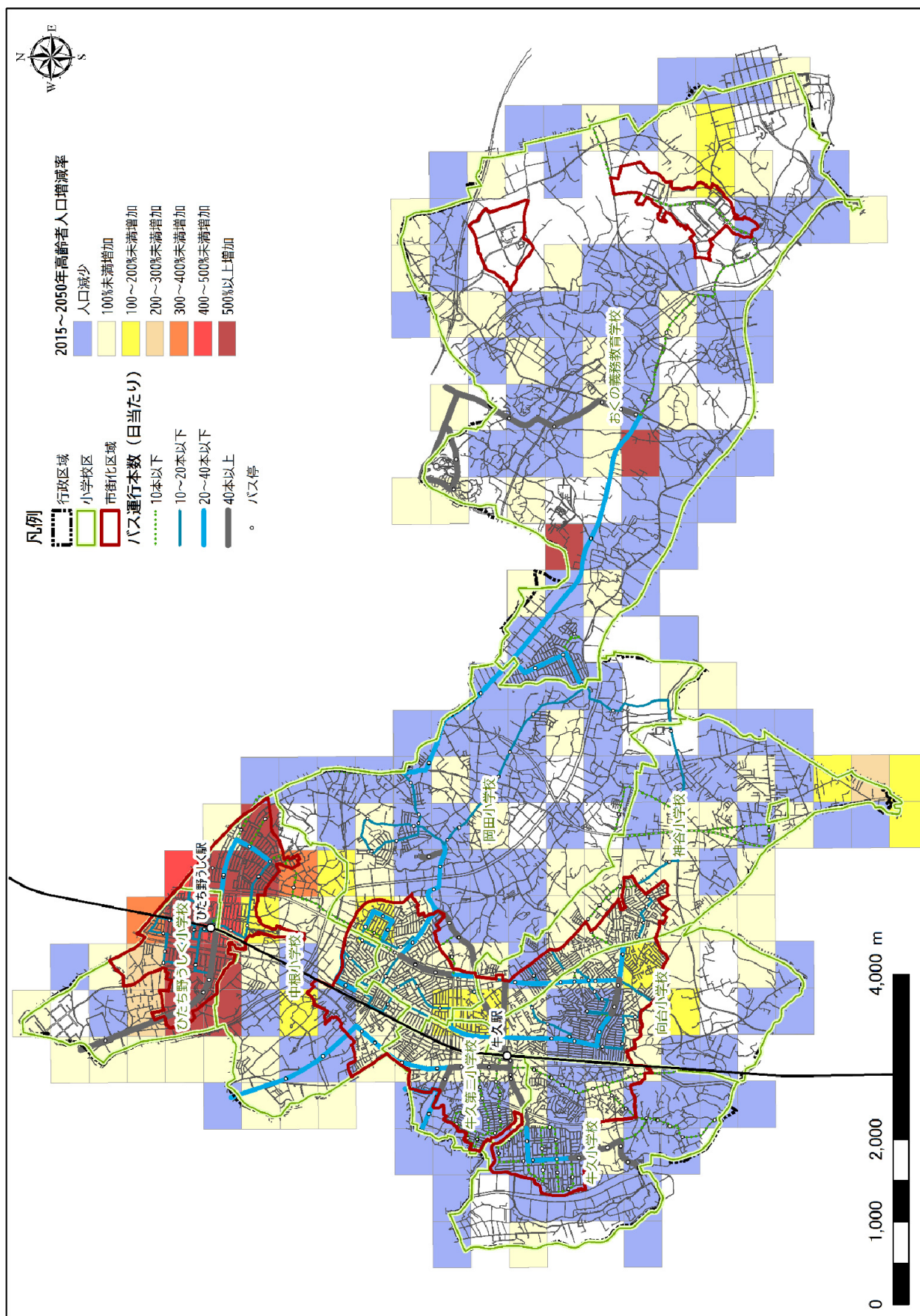
出典：国土交通省（平成 30 年推計）

平成 27 年(2015 年)～令和 32 年(2050 年)の高齢者人口増減率（市街化区域拡大）



出典：国土交通省（平成 30 年推計）

平成 27 年 (2015 年) ～令和 32 年 (2050 年) の高齢者人口増減率 (全市)



出典：国土交通省（平成 30 年推計）